

科学技術社会論学会

内容

2024年度活動報告 (p.1-4)

- ・会長から
- ・会員状況
- ・カレンダー
- ・写真で振り返る2024年度

事務局より (p.5)

- ・今年度ニュースレター発行について
- ・メールアドレス登録のお願い
- ・書籍寄贈についてのお願い

学会事務委託先

〒162-0801
東京都
新宿区山吹町 358-5
(株)国際文献社内
科学技術社会論学会
E-MAIL: sts@as.bunken.co.jp
TEL: 03-5937-0317
FAX: 03-3368-2822

2024年度活動報告

科学技術社会論学会

会長：綾部 広則

新型コロナウイルスの世界的大流行が一応の終息をみせた一方で、ロシアによるウクライナへの侵攻やイスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの侵攻は終息どころか苛烈をきわめています。さらに11月には米国でドナルド・トランプ元大統領が再選されるなど、ポスト冷戦期の国際秩序が大きく変動しつつあることを痛感させられる1年でした。国内に眼を転じて、能登半島地震からの復興が思うように進まない状況が続いています。こうした状況にSTSとしてどう向き合うか。それを改めて考えさせられる1年であったように思います。

さて、本会の活動としては、9月28日に国際基督教大学でジェンダー・イノベーションに関するシンポジウムをハイブリッドで開催しました。内容の充実ぶりもさることながら、山口富子副会長を始めとした実行委員の方々の業者かと思ふばかりの運営により盛況に幕を閉じました。12月に東京大学本郷キャンパスで開催された第23回年次研究大会・総会では、横山広美委員長を始めとした実行委員の皆様方の奮闘努力により、277名という過去最高の参加者数となりました。高額の会場費をどう捻出するか等、見えないご苦労も多かったと仄聞しております。さらに年が明けて3月には、郭文華4S（Society for Social Studies of Science）会長の取り計らいにより、4Sと当会の間で覚書（MOU）を締結いたしました。特に具体的な縛りや負担があるMOUではありませんが、本会が国際学術団体との交流を深める重要な契機となるものと思っています。

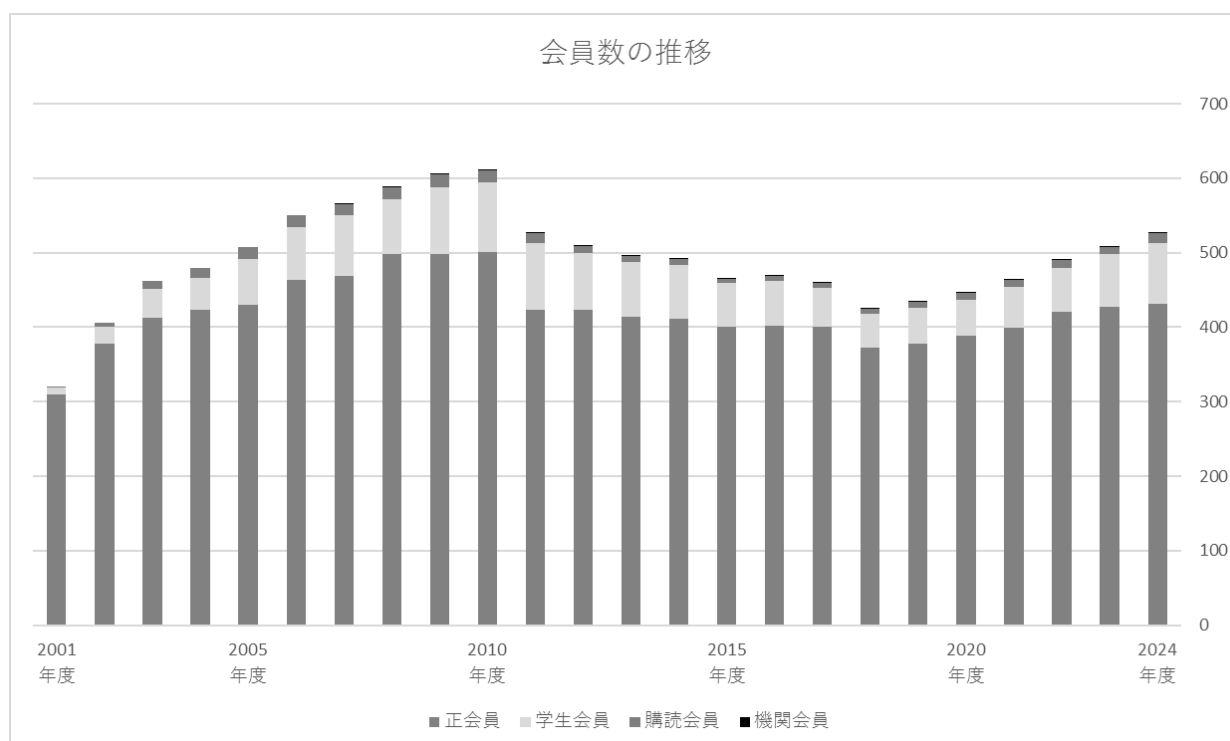
一方で、9月には夏目賢一理事の急逝という大変悲しい出来事がありました。夏目理事は物理学史を専門としながらも、現代的な課題にも深い関心を寄せるなど二足の草鞋を履いた研究者でした。9月のシンポジウムや12月の次研究大会の開催校主催シンポジウムが可能となったのも、夏目理事の尽力によるものといっても過言ではありません。夏目理事が残した課題をどう受け継いで展開していくか。それが我々に果たされた課題であると強く噛みしめています。

2024 年度会員状況 (2025 年 3 月 28 日時点)

正会員	432 名
学生会員	81 名
機関会員	2 件
購読会員	13 件
合計	528 (+ 寄贈 1 件)

本学会は 2001 年度に 310 名・組織の会員で発足しました。その後、会員数は順調に増加し、2010 年度には 611 名を擁するにまでなりましたが、2011 年度の急減を皮切りにその後も微減が続き、2018 年度には 426 名・組織にまで減少しました。しかし、そこから増加に転じ、本年度末には上記の通り 528 名・組織にまで回復しています (下図)。

会員数の減少は、会員へ提供できるサービスの低下だけではなく、会員相互の交流による学術活動の低下にも繋がってしまいます。会員数が増加し続けるという社会状況ではありませんが、学会としては学会誌の定期刊行、大会の適切な運営、学会シンポジウムやウェブサイト等を通じた関心層へのリーチ、関連他学会との連携、会費納入率の向上等に引き続き取り組んでまいります。会員の皆様におかれましても、関心のある方への入会のお声がけをいただければ幸いです。



2024 年度カレンダー

- 5 月 15 日 第 101 回理事会 (2024 年度 1 回目)
- 6 月 12 日 「STS を学べる国内の大学院等」を学会ウェブサイトで公開
- 9 月 28 日 2024 年度学会シンポジウム「ジェンダード・イノベーション」(国際基督教大学/オンライン) (後援: 研究・イノベーション学会、国際ジェンダー学会、日本科学史学会、日本工学会、日本工学教育協会、日本女性学会)
- 10 月 2 日 第 102 回理事会 (2024 年度 2 回目)
- 10 月 26 日 STS ステートメント・サイエンスセッション (サイエンスアゴラ 2024 出展企画/後援: STS 学会)
- 11 月 15 日 2024 年度科学技術社会論・柿内賢信記念賞 選考結果発表
特別賞 鬼頭 秀一氏/奨励賞 中原 理沙氏・塩野 麻子氏/実践賞 一片井 祐子氏
2024 年度科学技術社会論・柿内賢信記念賞 授賞式・記念講演
- 11 月 15~17 日 第 37 回日本リスク学会年次大会 (協賛: STS 学会)
- 11 月 25 日 第 103 回理事会 (2024 年度 3 回目)
- 11 月 30 日~12 月 1 日 第 23 回年次研究大会・総会 (東京大学本郷キャンパス)
26 グループセッション (発表 76 件) /13 オーガナイズドセッション (発表 47 件) /参加者 310 名
大会実行委員会シンポジウム「懸念への力学~安全保障と研究者~」
- 12 月 5 日 『科学技術社会論研究』第 23 号「特集: 科学のシャドウ・ワーク」発行
- 12 月 23 日 理事・監事選挙立候補受付 (~1 月 17 日)
- 1 月 13 日 科学コミュニケーション研究会 臨時研究会「科学の信頼」(後援: STS 学会)
- 1 月 27 日 選挙結果報告 (理事 20 名・監事 2 名が立候補。定数以下のため全員無投票当選)
- 1 月 28 日 ニュースレター2024 年度選挙特別号 発行
- 3 月 4 日 第 104 回理事会 (2024 年度 4 回目)
- 3 月 7 日 ムーンショット新保プロジェクト E³LSI シンポジウム「ヒューマンエンハンスメント技術の法的・倫理的・哲学的問題」(後援: STS 学会)
- 3 月 13 日 Society for Social Science of Science と MOU (覚書) 締結
- 3 月 19~20 日 東日本大震災・原子力災害 第 3 回 学術研究集会 (後援: STS 学会)
- 3 月 31 日 ニュースレター2024 年度号 発行

写真で振り返る 2024 年度



9 月 28 日に開催した学会シンポジウム「ジェンダー・イノベーション」の様子。オンライン合わせて 100 名が参加した (左)。総合討論の様子 (右)。



2024 年度の研究会は東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館で 11 月 30 日、12 月 1 日に開催した。初日のシンポジウム「懸念への力学」で講演する伊藤憲二氏 (左)。小林信一氏はオンラインで講演した (右)。



11 月 30 日、2024 年度 科学技術社会論・柿内賢信記念賞の授賞式を開催した。特別賞を受賞した鬼頭秀一氏の記念講演 (左)。授賞者、勝見允行俱進会理事長、学会長、柿内賞委員委員会の記念撮影 (右)。

今年度ニュースレター発行について

今年度は理事・監事選挙があったため、ニュースレターは選挙特別号と本号の2回の発行となりました。選挙特別号は会員 ML でのみの送付とし、本号は学会ウェブサイトにも掲載しました。来年度から理事会は新体制となりますが、引き続きニュースレターは年1回発行いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

メールアドレス登録のお願い

新年度にむけてメールアドレスが変わる方は、学会ウェブのマイページからログインして再登録をお願いします（アカウント名およびパスワードは会費請求書に印刷）。あるいは右の学会窓口にご連絡・問い合わせください

書籍寄贈についてのお願い

会員や関係者の皆様から、学会事務局に献本を頂いております。頂いたものは評者に再送する必要があります。手間とコスト削減のため、今後寄贈を希望する方は、郵送前にまず学会事務局

(sts@as.bunken.co.jp) までご連絡ください。直接評者に送れるように調整いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

科学技術社会論学会

われわれは、科学技術と社会の界面に生じるさまざまな問題に対して、真に学際的な視野から、批判的かつ建設的な学術的研究を行うためのフォーラムを創出することを目指し、科学技術社会論学会を設立するものである。

(設立趣意書より)

編集

科学技術社会論学会事務局
編集長 川本 思心

問い合わせ

科学技術社会論学会事務局
(sts@as.bunken.co.jp) まで

学会窓口

〒162-0801
東京都
新宿区山吹町 358-5
(株)国際文献社内
科学技術社会論学会
E-MAIL: sts@as.bunken.co.jp
TEL: 03-5937-0317
FAX: 03-3368-2822

科学技術社会論学会

ニュースレター2024 年度号

2025 年 3 月 31 日発行